

① 現代に息づく心優しい田んぼの神様



「田の神さま」

実物資料を展示中。右手にメシゲ(飯杓子)、
左手に杵を持っている。

所蔵：えびの市歴史民俗資料館

今回の展示では、石の利用について旧石器時代や縄文時代といった古い時代だけでなく、現代の資料も展示しているのが特徴です。その現代の資料の代表が、この「田の神^{かん}さま」になります。

「田の神さま」は田の神様を象った像で、県内では県南地域を中心にして、今でも見ることができます。「田の神さま」は、18世紀初め頃から作られ始めたと考えられていますので、その歴史は300年以上になります。当初は神官や仏像の形を模した神聖な神仏として祭られていました。しかし、次第に穏やかな表情やユニークな仕草をしたものが増え、顔には化粧も施されるようになるなど、一般の民衆に寄り添った世俗的な信仰の対象に変わっていきました。「田の神さま」の後ろ姿は、男根を象ったものも多く、人々はそこに生命を生み出す祈りを捧げたのです。そして、「田の神さま」は、いたずらや悪さをされても怒ることなく、田んぼを守り続ける優しい神様として、現代でも人々に寄り添い続けています。